

愛媛県がん診療連携協議会
「がんの集学的治療専門部会」議事録
2021/7/8 Web 会議 18 時～18 時 45 分

1. 愛媛県がん診療連携協議会後援の講演会について **松山日赤 村上先生**

抗がん剤曝露対策に関する講演会を2015年から5年連続で開催している。昨年はコロナで開催できなかったが、今年は10月27日(水)に第6回目をWeb開催の予定である。ご参加をお願いします。この講演会では、毎年同様のアンケートを取らせてもらっており、どのように曝露対策が改善しているかを年次推移でみて報告している。近々各施設にアンケートを依頼させて頂くので、ご協力をお願いします。免疫チェックポイント阻害剤によるirAEのマネジメントについては、継続中。

2. 薬薬連携 アンケート報告 **四国がん 亀岡**

病院薬局と保険薬局の薬薬連携の現状把握のため、2020年に、愛媛県薬剤師会の保険薬局に勤務する薬剤師を対象にアンケートを実施した。主な目的は、2009年に実施した同調査との比較、2020年度に薬剤服用歴管理指導料 特定薬剤管理指導加算が新設されたことに伴い、愛媛県における現状把握と今後の課題について探索すること、である。

アンケートには534名(31%)の薬剤師より回答を頂いた。がん化学療法に興味があるか、という設問では、興味がある・やや興味がある、と回答した薬剤師は2009年と2020年ではほぼ同程度であるが、がん化学療法に積極的に関与したいか、という設問では、積極的に関与したい、と回答した薬剤師は2020年において増加傾向にあった。がんに関する勉強会にとっても興味がある・やや興味があると回答している薬剤師の数は多く、知りたい情報では、2009年、2020年いずれにおいても「各がん種の治療法」「副作用の対処法」が多かった。一方で、勉強会を未受講である薬剤師は過半数程度あり、それには若干の地域差がみられるようであった。これについては、講演会の開催数自体に地域差があることも影響していると考えられるため、今後はWeb勉強会も活用できれば良い。

<愛媛大学 薬師神先生>

加算を取得している薬局はどのように病院と連携してレジメンを把握しているのか。また、病院から近い薬局が多いのか。

・加算を取得している薬剤師は全体の1/4にとどまっており、地域別では松山支部が約半数である。今回の調査では詳細を問うことができていないが、加算を取得していない理由としては、レジメンの確認が難しい、施設基準を満たす(研修会に年1回参加する)ことが難しい、情報・知識不足、対象患者が少ない、などが挙げられている。

▼意欲はあるが患者情報が薬局につながっていない等の対策について、加算を取得している薬局の具体例など追加調査をおこなうなどの対応ができるとよい。

▼Web勉強会についても、薬薬連携に応用できればよい。

▼今後、学会発表および論文文化についてもすすめていく予定である。

3. 愛媛県のがんゲノム医療～ゲノム情報を用いたスクリーニングシステムの現況～

四国がん 仁科

以前からすすめているSCRUM JAPAN愛媛連携では、臨床研究の中でがんの遺伝子パネル検査を用いてスクリーニングシステムをつくることを目的として、リキッドバイオプシー検査を用いた研究を活用し全国的に地域における連携をすすめていたが、最近のリキッドバイオプシー検査の保険承認されたことにより、今後の研究における地域の連携をどのようにすすめていけばよいかという議論が中央事務局でなされている。愛媛連携においても、臨床研究での連携を計画していたが、中央事務局で今後の地域における連携についての方向性が決まり次第、改めて相談させて頂きたい。一方で、愛媛では既に拠点病院、連携病院等をはじめとして保険での連携が進んできている。引き続き、愛媛県下で遺伝子解析に基づいた治療を行える体制作りについて、ご協力をお願いします。

製薬会社主催の講演会が7月12日(月)に開催される。愛媛大学の薬師神先生に司会をして頂き地域のゲノム医療の現状の報告があります、特別講演は仁科が司会を行い演者としては、キッドバイオプシー研究の中心となって頂いている中村先生に講演を頂く予定である。愛媛での拠点病院の現状を紹介する時間も設けられているので、是非参加して頂きたいと思います。

4. GSTDによるコアリングの調査結果の論文化

愛媛大学 済川先生

CSTD によるコアリング研究については、4月に論文を投稿したが、査読が返ってきていないという状況である。引き続き継続していく。

5. 県内HD暴露対策の進捗報告／放射線科医師の参加／AYA世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワーク構築セミナー／がんサバイバーシップ関連、等

四国がん 青儀

・県内HD暴露対策の進捗報告

HD曝露調査を年1回の頻度でおこなっているが、今年の1月におこなわれた次亜塩素酸＋酸性水でできたHDプロテクトスプレー(曝露物質除去水)を用いた調査では、予防的な投与の効果が出ているのではないかと、いう結果が得られた。一方で、一部の施設においては、除去しきれていないという結果もみられた。これらについては、データの解釈や清掃の仕方についての検討会をおこない、メンバーの皆さんで共有したいと考えている。時期は8月頃を予定したい。

・放射線科医師の参加

以前より愛媛大学の薬師神先生から提案頂いていた、病院間での放射線科の紹介手順の簡略化に関しては、当院の放射線部門に相談したところ、前向きな回答を得られていた。今回、がんの集学的治療専門部会へ当院の放射線科の濱本医師が参加となったので、紹介する。各施設においても放射線診断・治療医にメンバーとして参加してもらって頂くことについては、ご検討頂きたい。

・AYA世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワーク構築セミナー

愛媛大学の杉山先生、愛媛県立中央病院の石田先生が中心となって頂き年1～2回、AYA世代対応ネットワークセミナーとしてサバイバーシップ保持に関する講演会を開催している。第4回目として8月20日(金)にWeb開催を予定しており、この回では各施設がどのように対応しているかといった事例集を紹介するような内容となっている。ご参加をお願いします。

・がんサバイバーシップ関連

サバイバーシップに関しては、オーストラリア、アメリカが先験的に活動しているが、この夏に、アメリカにおけるサバイバーシップの教科書の日本語訳が出版される予定である。大変な活動であるが、がんの集学的治療専門部会の皆様にもご興味を頂きましたら、お配りしますので、活動の端緒にして頂きたい。国立がんセンターに在籍されていた高橋都先生よりe-learningを含めたセミナーを実施するという計画があり、愛媛県もモデル事業としておこなえないか、検討している。サバイバーシップにご興味のある方がおられましたら、ご協力をお願いします。

・コロナウィルス感染症対策について

以前より松山赤十字病院の白石先生からコロナウィルス感染症の影響で自施設での化学療法ができない状況がおこった場合に、愛媛県内の連携で他の病院での受け入れができるような体制づくりについて提案を頂いており、そういったシステムの構築については当院の幹事会でも検討をさせてもらっているところである。しかしながら、災害時の連携については、がんの集学的治療専門部会だけでなく他の部会も交えて検討しなければならない大きな活動となるので、当院の院長(協議会会長)とも相談しながら、検討していきたい。

・情報提供について

最近日本がん看護学会誌に掲載されたばかりで、石川県立看護大学の牧野先生と当院が共同でおこなった研究結果について紹介する。TC療法の患者さんの唾液にどのくらいエンドキサンが含まれているかという研究で、おおよそ24～30時間でほぼなくなるという結果が得られた。これにより、例えば子供さんと触れ合う時などには、数日間は用心して頂きたいことを提言できる。(「乳がん患者の薬物療法後の唾液へのシクロフォスファミド排泄調査」日がん看会誌 35, 39-44, 2021.)

6. その他

愛媛大学 済川先生

がんの集学的治療専門部会では対象外の議題であるが、各施設の状況を教えて頂きたい項目について、お願いしたい。B型肝炎の既往感染症例(HBS陽性またはHBC抗体陽性)では、1～3カ月に1回抗体検査が必要となるためPBPMを検討しているが、肝臓専門医より質問を受けたため、皆様の施設での状況を参考にさせて頂きたい。例えばレジメンによって異なる運用をしているか、等について教えて頂きたい。

▼愛媛大学にて調査票を作成頂き、がんの集学的治療専門部会からの発信で実態調査をおこなう。